30amS-001

薬物療法の実践に重点を置いたシミュレーション教育の有用性について

○座間味　義人[1], 小山　敏広[1], 白石　奈緒子[2], 武本　あかね[2], 四宮　一昭[1], 万代　康弘[3], 狩野　光伸[1], 千堂　年昭[2], 須野　学[1,4]（[1]岡山大院医歯薬, [2]岡山大病院薬, [3]岡山大病院呼乳内外, [4]岡山大医療教育統合開発セ）

【目的】シミュレーション教育は，医療教育における有用な学習方略のひとつである．薬系大学においても各種シミュレータを用いた教育が試みられているが，多くはフィジカルアセスメント等の技能修得に留まっている．そこで，本研究では臨床薬学系の演習として，薬物療法の実践のためにシナリオを用いたシミュレーション教育を実施し，その教育効果について評価を行った．

【方法】岡山大学薬学部，臨床薬学演習Ⅲ（選択科目：5，6 年生対象）にて正規履修学生 8 名を対象に実施した．演習内容は，各種シミュレータを用いた「一次救命処置」，「バイタルサイン」の項目を演習させた後，「症例シナリオに対する薬物治療」を実践させた．シミュレーション教育の評価は，演習最終日に実施したアンケートの結果から行った．

【結果】アンケートの結果は，　今回実施したシミュレーション教育が学習者の救命処置，バイタルサインおよび症例に対する薬物治療に対する自信を飛躍的に高めることを示した．また，演習内容に対する理解度および学習意欲の程度は高い評価を示した．アンケートの自由記述欄には，他の疾患や高齢者・小児の症例に対するシミュレーション教育を開講してほしいという意見があった．

【考察】学習者によるシミュレーション演習内容の評価は良好であった．薬物療法の実践に重点を置いたシミュレーション教育は，実施した技能の習得だけにとどまらず，　演習内容に対する学習意欲を高める有用な教育方法であると考えられる．